

## 令和3年度 第1回田原市図書館協議会議事録

日時：令和3年5月18日 午後2時～午後4時

場所：田原文化会館101会議室

出席者：協議会委員8名

(本多、中島、別所、一ツ田、内浦、小澤、永田、北原)  
事務局3名(是住、朽名、宮嶋)

### 議事内容

- ・開会
- ・館長あいさつ
- ・協議
  - 1) 前回の議事録(案)の確認について
  - 2) 令和3年度田原市図書館事業計画について
  - 3) その他 「まち\*ほん生涯読書振興計画の策定について(報告)

事務局：本日は、お忙しいところご出席くださりましてありがとうございます。開会前に職員の異動について連絡させていただきます。この度、中央図書館の係長となりました宮嶋と申します。よろしくお願いいたします。

前年度まで中央図書館でお世話になっておりました朽名です。4月から館長補佐兼係長として渥美図書館に異動になりました。引き続きお世話になります。よろしくお願いいたします。

それでは、田原市図書館協議会を開催させていただきます。ただいまの出席委員は、8名でございまして、過半数を超えており、協議会は成立いたします。次第に沿って会議を始めさせていただきます。

では、開会にあたり館長から挨拶させていただきます。

館長：みなさんこんにちは。お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。緊急事態宣言が発表されている中、ご参加いただき、ありがとうございます。感染防止のために、いつもの部屋と違って広い会議室に変更させていただきました。図書館は現在、3時間以内のご利用をお願いしながら開館をしています。早く終息に向かってほしいと思っております。

図書館は4月から組織体制が変わりまして、今までは中央図書館と渥美図書館という2つの課がありましたが、それが図書館という1つの課に統合しました。このため、館長も1人となりました。また、中央図書館係と渥美図書館係の二つの係

が出来まして、先ほどご挨拶させていただいたように、渥美図書館には館長補佐兼係長が配置され、中央図書館にも係長が配置されております。よろしく申し上げます。また、7年ぶりに司書職の採用があり、新しい司書が中央図書館に配属されています。

本日は、主に令和3年度の図書館事業計画案についてみなさんにご審議いただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

事務局：では、議題に入らせていただきます。ここからは委員長の河合先生がご欠席のため、副委員長の中島先生に議事の進行をお願いします。

副委員長：よろしく申し上げます。本日は私が進行ということ为先ほど知って、ドキドキしておりますが、みなさまに助けていただきながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

それでは次第に従って進めさせていただきます。協議内容に移りたいと思っております。まず1番目といたしまして、前回の議事録の確認について、事務局から説明をお願いします。

館長：協議会開催通知の文書に、前回の議事録を同封させていただきましたけれど、修正箇所やその他お気づきのことがございましたらお知らせください。

副委員長：私からでもよろしいでしょうか。3ページのところで新美南吉の漢字が違っていました。あとは、4ページの「先生たちが一生懸命」とあるのは間違いではないと思うのですが、一所懸命の方が良いかと思いました。

館長：ありがとうございます。修正させていただきます。他はよろしいでしょうか。

委員：(特になし)

館長：ありがとうございます。それではこちらの内容をホームページで公開させていただきます。

副委員長：では、次の議題に進めさせていただきます。令和3年度田原市図書館事業計画(案)について、事務局の方から説明をお願いします。

館長：令和3年度田原市図書館事業計画(案)について説明させていただきます。また、A4サイズの表が入っている資料がございます。こちらは図書館の今年度の予算案となっております。まず、予算の方から説明させていただきます。  
(令和3年度予算案について説明)

続きまして、「令和3年度田原市図書館事業計画（案）」をご覧ください。昨年度の1回目の図書館協議会におきまして、例年通り、事業年報を元に一昨年度の事業について報告させていただきました。そこで、意見として、事業年報では図書館が何を目標として重点的に取り組み、どこまで達成したのかというのが分かりにくいという指摘をいただきました。そこで、今年度からは、年度ごとに事業計画を立ててそれが実際にどうであったかという評価を行い、次年度に向けて改善していくというPDCAのサイクルをまわしていくことができると考えております。今年度より、新たに年度ごとの事業計画案を作りましたので、図書館協議会のみなさまに見ていただいて、ご意見をいただき、改善していきたいと思っております。

（令和3年度田原市図書館事業計画（案）について説明）

重点事業についての説明は以上です。ここまでで、ご質問やご意見はありますか。

委員：新規事業がたくさんあるが、こんなことをやりたいという思いは伝わってくるが、一方で予算は減っている。リソースが減っているが、このあたりは大丈夫なのか。

館長：お金や人手はあまりかけられないのですが、打って出ていくこともやってみたいと考えています。実際にはできなかったという項目も出てくるかとは思いますが、取り組みに向けた準備をしてくれているものも多くあります。この案については、図書館協議会からご意見をいただき、各チームからも意見を出してもらおう予定になっていますので「今年度はこの項目は無理です」という意見を受けて事業案を修正することもあります。

委員：ボランティアを上手に使うことも考えられるかと思うが、その辺のやり方は、どうか。技科大などともやれると思う。

館長：図書館員がコーディネーターとなってボランティアさんと一緒にやっていくというのが一番理想だと思う。昨年度の山田もとさんの生誕記念イベントでは、担当の職員がプロデューサーのように、校区の方々や小学生、高校生、ボランティアさんなどとの調整を行い、イベントの実施について協力をしてもらった。理想としてはそういうやり方をやっていきたいと考えている。

委員：とりあえず、やりたいことや、やるべきことを目標に出して行って、できなかったことは反省点として次年度に持ち越す感じでしょうか。

委員：評価指標が出ているので、できなかったことが変に議会とかに出て自分たちの首を絞めることにならないか。

館 長：図書館の年度ごとの事業計画と評価については、課内で進捗管理をやっていくことになります。議会で報告することはありません。

委 員：図書館の利用は女性が多いのか。男性の利用は少ないのか。

館 長：利用統計では、60歳以上になってくると男性の利用が多くなる傾向がある。40代、50代だと女性の方が多い。イベントの参加者はまた違うと思う。

委 員：農業関係の人とか、商工関係の人とか、ある程度分野を決めて集まってもらうというのを仕掛けていっても良いのではないかと。

館 長：市政ほ一もん講座で渥美地域の商工会の女性部の皆さんが来てくれたことがあった。図書館の使い方講座と見学をしてもらったが、非常に皆さん元気でいろんな意見が出た。そういう人たちとつながってやっていくことも大事だと思う。赤羽根地域で実施したウィキペディアタウンでは菊農家さんに協力してもらって、その後交流ができ、菊農家さんたちが図書館で菊の展示をやっても良いのではないかと行ってくれたこともあった。そのような展開もできればよいと思う。

委 員：農家の女性なども思いを持つ人もたくさんいると思う。後継者の問題もあるので、テーマを設定して集まってもらって、図書館を通じてより活性化できるような仕掛けができると良い。

委 員：アトリウムで何回か大規模な生花の展示があったが、1～2週間で終わって、変わっていった。どうしてこういう展示をやるのか、展示の後の花はどこへいくのか。みんな気になっていた。説明が少なくてわからなかった。

館 長：国の補助事業で田原の花弁農家の支援ということで、4店舗ほどが順番でアトリウムに生花の展示を行ったと聞いている。最後の方の展示では黒板に自分たちの思いや展示のコンセプトなどが書かれていたかと思う。

委 員：図書館で、こんな理由でこんな展示をやっていますという説明があっても良かったと思う。あれだけで終わってしまっても良かったのかなと思った。

委 員：全国有数の農業地帯であるのに、生産者と消費者がつながっていない。国からの助成金とか補助金とかで、上から言われたのでやる感じ。自発的なものじゃない。

委 員：災害でも同じようなことが起こっている。補助金をあてにしないと生きていけない。そういう気持ちを誘発させるような気がする。

花の展示についても、きちんと説明や考えがあると共感できたのに、残念だった。

委員：図書館でそういった問題を扱った展示をしたり、話し合える場を作っても良いのではないか。

館長：行政・議会支援サービスが始まったのも、伊良湖のフェリー廃止が検討されたときに、フェリーの模型などを借りてきて、資料と一緒に展示して市民のみなさんが考えるきっかけにするということがスタートだったと聞いている。様々な地域の課題がテーマになっても良いと思う。

委員：人口の流出が止まらない。それを真剣に議論する場所が無い。このままいって田原市は大丈夫なのか。道路が通れば解決するのか、図書館でそういった議論をしてもよいと思う。

委員：図書館にはいろんな考え方の書籍があるので、議論をするにはちょうど良い環境だと思う。

館長：図書館でパブリックコメントを募集というのはこれまでもよくやっているが、関連書籍を並べて、意見箱を置くというところから一歩進んで、パブリックコメントの書き方や、書いて意見を出してみようというところまでやってもいいのかもしれない。市民が思考停止にならずに、町をよくするためにいろんな情報を調べて自分なりの意見を持つということが大事で、そのために図書館がある。

委員：農村地帯では、一つの案しか出てこない。プランA、B、Cなど3つくらい持っていないと。どれが一番良いか考えるとか、30年先のことを考えてやっていくとか、そういうことも大事。

委員：デジタル資料を充実させていくことも大事だが、ローカルな視点も大事。ガラクタ情報ばかりでどれが信ずるに値する情報なのか分からない。自分が考える幸せは何なのか。流れに身を任せてしまう生き方になってしまう。何のための読書なのかを考えるプラットフォームを作っていくとか、メッセージを発信していくことも必要。

委員：ふるさと教育が重点的な取組みになっているが、一度はここを離れても田原に帰ってくる子どもをどうしたら育てることができるのか。私たちの環境がどうだったら、子どもたちが帰ってくるのかを考えることで、いろんな課題を検討できる。

副委員長：その他、みなさんいかがでしょうか。

館 長：では、時間の関係もあるので、4の評価指標の説明をさせていただきます。  
(令和3年度田原市図書館事業計画(案)について説明)

委 員：来館者満足度というのは、アンケートによって把握するのか。

館 長：アンケートを取る予定。図書館の来館者満足度についてはいろんな意見があり、図書館に来ている人なのだから満足度が高くなるに決まっているだろうという意見もある。ですので、やり方については工夫しなければならないと考えています。

委 員：最近アンケートはGoogleフォームで集めるととても便利なので、そういう方法もやったらいいのでは。集計もとても楽なので。

館 長：若い人はQRコードでフォームからアンケートに答えてもらったほうがやりやすいと思います。市が数年に一回、市民意識調査をやっているのですが、そちらに質問項目を加えることも想定しています。そうすると図書館を利用しない市民からの統計も集めることができる。

委 員：私は(評価指標が)とても良いと思っている。ただ何の数であっても、これからは上がっていくことの方が稀なので、必ず、評価指標は維持、もしくは微減が基本になってくる。何をして評価されるのかが大事な視点。田原の図書館の温かみや信頼に重みを置いて、自己評価を取り入れればどうかと思う。担当した職員が自分で自己評価する。利用した人もその事業について評価する。お互いに評価が良いとハッピーだし、違っていることもあるかもしれない。その差異を測るというのも良い。うまく評価指標を使ってほしい。市に予算を取っていくための指標ではなくて、自分たちの改善につながるような指標として使えれば良い。

委 員：工作教室のアンケートでも何点だったと聞くと、子どもたちは答えやすいかもしれない。

委 員：イベント毎に毎回取るのは大変なので、A B C Dとかの紙を用意しておいて投票する、コメントしたい人は別に書いてもらおう、とかでも良いのではないかと。

館 長：今回、図書館協議会のみなさんにまず見ていただきました。このあと、実働部隊の職員に見てもらって、これはキツイなどの意見が出ることもあると思う。それによって少し修正して、今年度の事業計画として、目標に向かって取り組んでいきたいと考えている。

副委員長：それでは、3のその他「まち＊ほん生涯読書振興計画の策定について（報告）」事務局の説明をお願いします。

館長：配布させていただきました「まち＊ほん生涯読書振興計画」について、昨年度、協議会のみなさんにご協力いただき、完成しました。先週の金曜日に開催された教育委員会定例会で、教育部の各課の個別計画とともにお示しさせていただいて、了承を得たところです。順次、市のホームページで公開されていく予定となっております。

副委員長：その他で何かありますか。

委員：ボランティアと図書館との月例会議である「かぶ会議」の報告を、もっと発信したり、広報活動が必要ではないか。

館長：図書館のホームページで公開していることと、館内の掲示板に貼ってもらってはいるが、もっと知ってもらおう工夫をしたい。

委員：紙芝居のデジタルアーカイブについて、「ミス・フクエ・アツミ」などとても良いものが出来上がっている。

委員：紙芝居は郷土資料としてもとても良いと思う。

館長：ちょうど今、3館で紙芝居の現物を展示しているので、見ていただきたい。

副委員長：では、今日は長時間にわたりありがとうございました。今日は文化振興がメインの議論になったと思います。協議はこれで締めさせていただきます。では、事務局にお返しします。

事務局：長時間にわたり、ありがとうございました。以上を持ちまして、図書館協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。